集会宣言

本集会に集った我々全員は、三里塚空港反対同盟と共に政府・支配階級・執行吏反動武人の土地強制収用に対して、全力をあげて闘い抜くことを本集会の第一の宣言とする。

昨年十二月二十六日、千葉県土地収用委員会は、三里塚空港連合空港反対同盟の土地七反二十一歩の強制収用を決定し、続いて翌該者は二十八日に、一部工事区域内反対同盟所有地十三町歩への特権法適用・強制執行を決定した。そして強制収用の時期をこの二月中旬と定め、千葉県警はもとより、警視庁、関東管区の機動隊を動員し、実行をなそうとしている。

三里塚闘争四年七ヶ月、数度の激と敗を決するチャンスは到来した。

三里塚空港反対闘争四年七ヶ月の積年のうらみを込め、我々は共闘以来三年三ヶ月の闘争の全重量をかけて、支配階級の反動的意図を正面粉砕するために決起せねばならない。

集会参加の全労協諸君、学生、市民、農民諸君、

三里塚空港連合空港反対同盟は四年七ヶ月、国家権力の強制執行の挑戦。千数百名にたいする逮捕、負傷。厚顔なる闘争への動員は、総評・実行委員会をじりじりと追詰めてきた。にもかかわらず反対同盟のしめした不屈の闘志は全日本民衆の国家権力に対する闘いの原点をなしてきた。

今支配階級は、この反対同盟に対して総力をあげて弾圧を加えようとしている。

支配階級は七〇年代の安保闘争の最大の敵の時代にあって、今や自ら定めた法律的手段ですべてをなげうった彼等こそ最大犯罪の背反者である。

三里塚空港連合空港反対同盟の土地を収奪するのに、一体いかなる法に合致したことがあったというのか。今割収用明渡裁決申請を受理する条項、前例がどこにあったというのか。ただの一回、ただの一人の真摯聞証もなき収用裁決の、どこに法律的根拠があったというのか。「第一期工事等計画」などという事業を偽造し、特権法適用を認可する根拠がどこにあったというのか。

合法的手段で土地収奪の不可能を断定された彼等は、収奪の手段を暴力装置たる機動隊でもってなさんとしている。

そしてそれを執行する人間こそ、千葉県知事反動武人である。県知事反動は執行吏となり、政府の走狗となり、人殺し反動となった。

三里塚空港連合空港反対同盟の農民は、四年七ヶ月、不屈の闘争を貫徹したのみならず、来たるべき強制収用粉砕にひけて　故小川明治副委員長の遺影を先頭に、総庄抵戦の体制を構築した。

すでに本日、一月三十一日より、地下壕へのたてこもりを開始した。

一九六七年十一月三日以来、同盟と固く連帯し闘いてきた我々は、この時にあたり、全日本、千葉県下を問わず強制収用、強制執行、執行吏反動打倒の闘いをおこさねばならない。

本集会に結集した我々全員は、かつて千葉県下にひき大闘争に決起することを本集会の宣言として、ここに表明する。

一九七一年一月三十一日

一、三一三里塚空港粉砕・土地収用強制執行阻止・代執行責任者反動知事糾弾大集会